

平成28年度管内学校安全推進会議の概要

8月26日(金)、北海道空知合同庁舎にて、平成28年度管内学校安全推進会議を開催しました。会議では、学校における安全教育・安全管理に関する取組について、教職員、PTA及び関係機関・団体等の理解を深めるとともに、学校や地域の実情に応じた安全教育の普及並びに地域ぐるみで子どもを守る体制の一層の整備を図るため、実践的・効果的な安全教育の進め方に関する講義や管内での取組の発表、協議を行いました。

参加人数：57人
参加対象：
・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員
・市町教育委員会職員
・関係機関・関係団体者(交通安全推進団体・防犯協会等)等
・スクールガード(ボランティアを含む)

講義

「実践的・効果的な安全教育の進め方」 札幌方面美幌警察署 楠本 徑弘 交通課長 札幌方面芦別警察署 山越 浩幸 刑事・生活安全課長

楠本課長からは、平成27年度における管内の小・中学生、高校生に係る交通事故の現状や発生原因について説明がありました。また、未然防止のため、児童生徒自身が危険な状況を理解し、自ら危険を回避できるようにすることが大切であること等、指導のポイントを解説していただきました。



山越課長からは、少年非行や犯罪による子どもの被害の現状の説明がありました。また、芦別警察署管内における声かけ事案や飲酒等の非行事故、不審電話に対し、関係機関と連携を図り、容疑者等を検挙した例や、早い段階での通報・情報共有をすることが大切であること等、対応のポイントを説明していただきました。



実践発表

「児童生徒の安全を守る学校(園)の取組」 赤平市教育委員会学校教育係 中塚 英和 係長 新十津川町教育委員会学校教育グループ 坂下 佳則 グループ長 三笠市立菅野中学校 小松 明美 校長

赤平市教委からは、赤平市で整備し、ホームページにも掲載(<http://www.city.akabira.hokkaido.jp/docs/2015031200020/>)されている「赤平市交通安全プログラム」について発表がありました。通学路安全推進委員会を設置し、各関係機関と連携した通学路の緊急合同点検を基に対応を改善・充実するなど、安全確保に向けたPDCAサイクルを機能させる取組についてお話をいただきました。



新十津川町教委からは、実際に発生した虚偽の被害届けに対する町教委の対応事例について発表がありました。学校や関係機関における連絡体制や連携の在り方、メールやSNSを活用した情報配信の検討、不審者対応訓練等の防犯に係る教育活動の充実の必要性等についてお話をいただきました。

菅野中学校からは、学校における地域との連携を大切にされた防災教育の取組事例について発表がありました。災害時に避難所となる学校の準備の実際、消防や自衛隊などの関係機関、地域の方を巻き込んで実施した「避難場所宿泊体験」等、地域と連携し、児童生徒の防災意識を高め、自助から公助へつながる取組についてお話をいただきました。

三笠市地域防災計画 (<http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/hotnews/detail/00002158.html>)

部会別協議

交通安全部会・防犯部会・防災部会における協議

各部会において「学校の安全管理、児童生徒の安全確認、安全に関する情報共有」を柱として協議を行いました。その後、交通安全部会では「警察など地域の関係機関・団体等と連携し、児童生徒が体験的な活動を行う交通安全教育の推進」、防犯部会では「効果的な不審者対応の在り方」、防災部会では「地域の自然条件や学校の活動場面に合わせた防災訓練の実施」をテーマとして、事例を基に研究協議を行いました。特に防災部会では、8月に相次いで北海道に上陸した台風被害の影響から、「児童生徒の在宅時における自然災害(大雨)から児童生徒の安全を守る地域ぐるみの取組の推進」についても協議を深めました。

学校、行政等それぞれの立場での対応の在り方、実際にあった事例や講じた対応策等について、持参資料等を基に活発な意見交流がなされました。管内の学校や地域における取組について情報交流し、学校の安全教育及び安全管理、地域の関係機関・団体等との連携を図る取組について理解を深める協議となりました。

参加者の声



地域・行政・学校とのつながりで子どもたちの命を守る具体的な取組について理解できました。

自校に戻ってから、資料を再度読み、学校で取り組む必要がある活動をすぐに実行していきたいです。

事例をもとに協議したため、話し合いが深まりました。日常の学校における安全管理に生かしていきます。